

特集にあたって

安心して快適な生活環境を 患者に提供するために

企画・構成 泰川恵吾 Yasukawa Keigo

(医療法人鳥伝白川会 ドクターゴン診療所理事長)

近年の在宅医療の技術の向上，機器の高性能化のおかげで，重篤な患者も自宅で過ごすことが可能になってきた。今日わが国では，神経難病その他の呼吸障害で，酸素投与や人工呼吸管理が必要な患者でも，家族と共に自宅で生活することが可能となった。在宅医療で使用される最新の装置は非常に安定しており，医療者にとっては簡便な操作で，複雑な動作や細かなトラブルなども自動補正されるようになっているものが多い。

しかし，解剖，病態生理と，装置の構造や操作方法などの正しい知識がなければ，「最初の設定」「問題が発生した場合の対応」「経過中の微調整」は難しい。病態と現在の生活環境などから予見されるトラブルを未然に防ぐことで，患者により安定した快適な生活環境を提供することが可能である。また，心不全などの病態では，酸素や陽圧人工呼吸器をうまく使うことで，それ自体が治療になる場合もある。

さらに，在宅における酸素や人工呼吸の診療報酬請求は，その算定ルールが複雑であるために，事務的な知識も多く必要であるし，近年に多い大規模災害時の停電への対応には，それぞれの患者ごとの工夫だけでなく，地域全体での対応が必要な場合もある。

本特集では，在宅での呼吸管理についてのさまざまな知識を深めてもらえるよう，各病態・装置・保険請求などの専門分野ごとに，分担執筆してもらっている。在宅における呼吸管理について，理解を深めていただきたい。